

こどものイス

環境建築家

東京工業大学名誉教授 仙田 満



建築家にとって、イスという存在はとても重要です。建築という空間には必ずイスがあります。よくデザインされたイスはそれだけで空間が引き締まります。しかし歳をとると、イスの形よりも、座り心地が大切であることを体で知ります。孫がもうすぐ1歳を迎え、イスが必要になってきたので、40年以上前にデザインしたイスを持ち出して、座らせています。そのイスは息子が2歳の時に、私がデザインしたもので、小象の形に似ているので、“コゾウ”と名付けました。まだ1歳にならない孫には少し座が高く、足が床に届きません。

デザインした当時には、高さを3段階調節できるようにしましたが、素材を木としたため、強度をもたせるために少し重くなってしまいました。その後こどもが持って歩くことができるように、軽くて丈夫なものに改良しましたが、高さを調節できるようにするとイスの背に切り込みを入れなくてはならないため、そこの強度が弱くなってしまいます。そこでイスの高さを固定し、1歳用、3歳用、5歳用と高さの違うイスとなりました。今、孫が使っているのは、1歳用が品切れのため、3歳用のイスです。

この“コゾウ”は手摺付なので、座ると安定感があります。そのため小さなこどもに適しています。しかし、手すりがあると積み重ねることができません。この20年ぐらい、多くの保育園や幼稚園の設計に携わり、その中で、こどもたちが一緒に行動し、生活するためのイスが要望されました。イスを積み重ねられるようにしないと保育室の使い勝手が悪くなります。そこでスタッキングという、積み重ねられるようにしたイスを開発しました。アカンベーのベアに似ているので、“ベアチェア”と名付けました。3歳以上のこどもが使うイスとして、多くの

幼稚園で使っていただいています。この“ベアチェア”も“コゾウ”同様、木製です。

私は座面の硬さがこどもの行動にどのくらい影響するのか、知りたいと願っています。高齢者はよりやわらかい座面を好みます。硬い座面には長く座ってられません。私の記憶では、小学校のイスは木製でしたが、「おしりが痛い」とか「長く座ってられない」といった思い出はありません。そもそもこどもが何時間も座っているということはありません。年齢が低ければ低いほど、じっとしていません。でも、形、高さ、大きさ、硬さなど、こどもに何らかの影響があるのではないかと考えています。

かつてドイツの幼稚園を訪れたとき、大きなソファが置かれていることに感心しました。こどもにとって身体が沈みそうな、ふわふわなソファは特別なイスです。こどもの心と身体を解放するでしょう。幼稚園は学校というより、家庭に近い空間ですから、様々な形、硬さのイスが置かれる必要があります。イスはこどもにとってただ座るだけの場所ではなく、その上に立てば高い場所ですし、ある時は跳び箱、ある時はテーブルにもなります。1つのイスから様々な行動が広がっていきます。いろいろなイスがあれば、自分のお気に入りのイスを選ぶこともできます。イスは小さな個性を発揮できる場でもあります。

最近、私は恩師の愛用していたイスとテーブルを形見としていただきました。そのイスに座って、スケッチをしたり、文章を書いたりしていると、時々恩師を思い出します。

小さなこどものイスはある意味で、元気で創造的なこどもに育ててほしいと願う最初の空間かもしれません。

第 10 回都道府県政策担当者会議が開催される

10月4日、東京・私学会館にて全日私幼連の第10回都道府県政策担当者会議が開催され、全国から約120名の先生方が参加されました。主な内容は次の通りです。

■講演①「地方財政の諸課題について」

講師：出口和宏・総務省自治財政局調整課長

国家財政と地方財政のしくみについて、教育・社会保障・インフラ整備などの財政のしくみの概要に加え、その詳細な説明がありました。

平成30年度概算要求について、地方財政の課題について説明があり、地方財政措置について各府省への申入れが行われたことの説明がありました。また、社会保障の充実では、子育て安心プランについての説明があり、教育の無償化では、『人生100年時代構想会議』についての説明がありました。

■講演②「平成30年度概算要求について」

講師：丸山洋司・文部科学省高等教育局私学部私学助成課長

平成30年度私学助成関係予算要求の概要について説明があり、一般補助の園児一人当たりの単価や、特別補助の支援教育・預かり保育の推進等について説明がありました。

■講演③「すべての子どもに質の高い幼児教育を」

講師：先崎卓歩・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長

幼児教育の現状について説明があり、幼児教育無償化の意義について全ての子どもに質の高い幼児教育の機会を保障することは、極めて重要である旨説明があり、段階的に推進していくことが説明されました。子ども・子育て支援新制度では、幼稚園教諭等に関するキャリアアップ・処遇改善の説明がありました。



おわりに、幼稚園教育要領について、主な改訂部分について詳細な説明がありました。

■政策委員会報告

1. 坪井久也・全日私幼連政策委員長より、私立幼稚園等【私学助成園・新制度移行園】の課題及び経営上の留意点について報告がありました。また、待機児童対策として、幼稚園における2歳児の受け入れの意義について報告がありました。

2. 秋元信行・全日私幼連政策委員より、青森県の現状【少子化】について報告がありました。また、県内の助成等実態調査表をもとに振興活動について報告がありました。

3. 小林直樹・全日私幼連政策委員より、静岡県における私学助成園、新制度移行園の現状について報告がありました。また、県内の振興活動についての報告の後、待機児童に対する取組について報告がありました。

●第33回 設置者・園長全国研修大会開催される

伊藤京子氏（（公財）アルゲリッチ芸術振興財団 副理事長）が記念講演

10月16日・17日 大分県大分市

10月16日・17日、大分県大分市・大分オアシスタワーホテルにおいて全日私幼連の第33回設置者・園長全国研修大会が大分県私立幼稚園連合会（土居孝信会長）の協力を得て開催され、全国から465人の先生方が参加しました。

今年度の大会テーマ「明日にむけて幼児教育の振興を考える」のもと、開会式に続き、伊藤京子氏（ピアニスト、（公財）アルゲリッチ芸術振興財団副理事長）による記念講演「音楽と共に紡ぐ未来—子どもたちへ伝えたいこと」が行われました。続いて、先崎卓歩氏（文部科学省初等中等教育局幼児教育課長）より行政報告が行われました。その後、脇貴志氏（株式会社アイギス代表取締役）による基調講演「事故現場には後悔しかない～14年間、保育の事故現場で見てきたこと～」が行われました。

大会2日目は研究講座が行われました。研究講座の概要は次のとおりです。

【教育】幼児教育の質向上をめざしたカリキュラ



ム・マネジメント【振興】今後の私立幼稚園の振興をめざして【経営】事例からみる危機管理研修～あなたの園は大丈夫ですか？～【認定こども園】課題と見直しに向けて

2日間の研修大会の日程を無事に終えて閉会となりました。

なお、来年度は、栃木県での開催を予定しています。

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税

B5判 72ページ

2017年12月号の主な内容

- 大特集 リーダーの学びスイッチ！園を成長へと導くリーダーの学びの姿勢 保育の質を上げ、選ばれる園になるために、また園全体がイキイキとした集団となるために、リーダーの学びは大切な要素です。なぜリーダーが学ぶ必要があるのか、学びに対する姿勢はどうあればよいのか——、考えてみましょう。
- 人材育成のための保育のキーワード解説 よく耳にするけれど、改めて意味を聞かれると言葉に詰まってしまうキーワード。今回は「アクション・リサーチ」、「モニタリング」を説明します。
- 組織の活性化は若手の成長がカギ！若手保育者の育成法 一時的に担任を交換し、ほかのクラスを担当する「交換保育」は、自分の普段の保育の成果と課題を見直す絶好の機会。双方の子どもの姿から学ぶことは多いはず。



ISBN978-4-577-81417-8

792

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレール館**



「幼稚園ナビ」構築と今後の運用に向けて

全日本私立幼稚園連合会経営研究委員長
尾上 正史

○幼稚園ナビ構築の経緯

今、私立幼稚園では、子ども・子育て支援新制度移行園においても、従来の私学助成園においても幼稚園教諭等の人材確保が喫緊の課題となっています。

ある県の調査では、養成校等を卒業した有能な教諭の卵たちの8割以上が幼稚園教諭等に就職していないことの報告もなされています。

この状況を少しでも解決するため、全日本私立幼稚園連合会独自の就職支援ナビが必要になっています。その絶好機に、文部科学省の今年度新規事業として、「幼稚園の人材確保事業」の企画競争が公募され、当連合会が、全国規模の職員採用マッチングシステムを構築する企画書を提案し、文科省に採用されました。

そして、インターネットを活用した、新規学生や再就職希望者に幼稚園の状況をつぶさに知らせ、少しでも幼稚園に関心を持って貰い、短期間で求人採用を可能にする「幼稚園ナビ」を構築し、今年10月1日から全国徐々に運用を広げています。

○幼稚園ナビの特徴

- ①写真や文書で自園の情報を発信。地図や交通アクセスも掲載。
- ②自園の魅力を学生に発信（自園のお知らせ、PR、イベント案内・バイト募集が簡単に登録）
- ③求人情報を無料掲載（いつでも自園の求人情報が簡単に掲載）
- ④求人情報の簡単登録機能（大学毎に何度も作っていた煩わしい求人票作成が不要）
- ⑤求人票PDFの自動作成機能（求人情報から求人票を自動作成）

⑥ハローワーク求人と連動連携（ハローワークで応募中の求人情報をサイト上に掲載、不掲載が可）

⑦職員の研修・免許管理機能搭載（面倒な職員の研修履歴管理・免許期限管理が簡単）。研修申し込みから修了書発行まで自動運用が可能。

○今後の運用に向けて

「幼稚園ナビ」は「幼稚園情報」「イベント情報」「求人情報」「研修情報」等機能満載です。しかし、パソコンや携帯電話などの電子機器と同じように、登録などの初期設定がうまくいかず、放棄される幼稚園もあるかもしれません。「幼稚園ナビ」は全国統一で利用することから私立幼稚園のスタンダードになる可能性があります。幼稚園の人材管理から職員管理にも役立ちます。ITやICTは、利活用することが肝要です。

そのため、経研委から、各幼稚園でホームページや幼稚園ナビ、職員管理などシステムを担当する主任者を定めて頂くことを提案いたします。

幼稚園免許取得者を幼稚園等に引き付けるためには、幼稚園情報を詳細に公開し、他に負けない点をしっかりアピールしなければなりません。さらに、このナビは、幼稚園と求職者の双方向対応になっています。求職者の求める情報に如何に早く対応するかが人材確保の肝です。システム運営には二重三重の防御やパスワード管理で対応しますが、最後は利用者のマナーや技能に委ねます。

最後に、「幼稚園ナビ」は、入力情報が少なく発展途上です。成長が見込まれるシステムでもありません。幼稚園ナビは生きた情報が命です。正確に分かり易い情報入力をお願いします。

詳しくは Webサイトをご覧ください。



はじめてみませんか

寄付金募集

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります
まずは、下記までお気軽にご相談ください

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7316 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <http://www.shigaku.go.jp/>

寄付金は私立学校の
重要な収入源です！

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

新幼稚園教育要領について

白梅学園大学・教授
無藤 隆

新幼稚園教育要領は幼児期に相応しい教育を行いつつ、同時にそれが小学校以降の教育につながり、その基盤となるように、従来からの「環境を通しての教育」のあり方を明確にしたものです。幼児期に相応しい教育とは、小学校以降の教育とは異なって、身近な環境に関わることを基本とし、また幼児期にこの身の回りの世界の基本を構成する事柄への出会いを保障するのであり、その整理が5つの領域の内容となります。

身近な環境とは園で子どもが会うすべてです。大人であり子どもたちであり、砂や土や木や積み木や遊具や絵の具や紙であり、さらに虹や風や雨などであり、子どもはおそらく園において初めてしっかりとそれらを経験するでしょう。さらにその経験が深まるためには、子どもの関わりがあることが肝心です。その対象を操作し、働き掛け、作り、作り替え、組み立て、寄り添い続けます。そのような能動的なあり方を主体性とか自主性と呼び、また能動性の発揮でもあります。

これが幼児期に相応しい教育のあり方であり、幼児教育として、今回の改訂において、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に共通のものとして整理されました。幼児教育の施設として、幼稚園、保育所、認定こども園は共通に幼児教育を行う場となったのです。もとより、幼稚園と幼保連携型認定こども園は学校教育であり、保育所は児童福祉施設という違いは法律上に規定されています。その違いが幼稚園教諭と保育士の勤務や研修のあり方に関連もしてくるのですが、同時に、実質的な保育（教育）の中身は同様である

とするのです。従来からも、環境を通しての保育とか、5つの領域とかはほぼ共通でしたが、今回、その枠組みや細部まで含めて共通のものとししました。

さらに、幼児教育を通してどういう力を育てるのかを明確にしたのが「資質・能力」の枠組みです。「知識・技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」として、小学校以降の教育に近づけた言い方により三本の柱を定義してあります。それを幼児期に相応しい特徴で表すと、気付くこと・できること、試し工夫し考えること、心動かし、やりたいことが生まれ、それを目指して粘り強く取り組んでいくこと（心情・意欲・態度）となります。幼児期にそれらが育っていき、さらに小学校の教育の中で発展していき、18歳までの学校教育の根幹を形成します。これらの資質・能力は身近な環境に関わり、子どもの生活や遊びの中で培われます。常にその3つの柱はそれぞれの活動の中で発揮され、総合的に伸びていくのです。

その資質・能力の3つの柱が年長の後半になって、5つの領域の内容においてどのような姿として育ち、伸びていくか。それを示すのが幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿です。例えば、健康領域での資質・能力は、学びに向かう力では「充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ」、思考力等では「見通しをもって行動し」、知識・技能の基礎では「自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる」のです。「健康な心と体」では、保育者が指示するだけではなく、子ども自らが何のためにどういうことをするかの見通しを持ち、判断し工夫するというのが肝心です。

「自立心」では、子どもがどういうことを実現するかを構想し、それに向けて自主的に工夫し判断するようにします。「協同性」では、子ども同士が協力して、葛藤や主張や折り合いを通して、目的に向けてグループとしての達成を可能にしていきます。「道徳性・規範意識の芽生え」では、思いやりや決めたことを守って実施します。「社会生活との関わり」では、特に家族との関わりや地域の人たちとの関係を育て、情報や地域への関わりを可能にします。「思考力の芽生え」では、子どもにどういうものを作りたいか、工夫するかを考えるようにして、仕組みへの気付きを促します。「自然との関わり・生命尊重」では、自然物を生かしたり、動植物に関わり、命の大切さを学びます。「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」では、数量や文字への関心や感覚が生まれるように、生活や遊びの中で出会い使う機会を用意していきます。「言葉による伝え合い」では、グループで考えや感じ方や興味を交換して、言葉による理解と活動の発展を刺激します。「豊かな感性と表現」では、子どもの環境への出会いを自分の思いや感覚や考えを表す手立てを提供し、豊かにしていきます。

このような幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は完成を目指すものではありません。資質・能力が育っていき、年長の後半あたりで現れてくる姿であ

り、それは子どもの成長の途中経過を具体的に示しているものです。

こういった幼児期の終わりの姿は実は乳幼児期全体を通して育つものです。実際、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、乳児の保育を三つの視点で述べています。自分の心身への関わり、人との関わり（特に身近な大人との信頼関係）、ものとの関わり（身近な環境にあるものへの興味や好奇心）をまず育てるのです。その中の心身への関わりを「健やかに伸び伸びと育つ」として、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。」とまとめていますが、このことは幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の「健康な心と体」につながっていくものです。このように乳幼児期の発達は連続的であり、子どもの学びはそれに基づいて、次々につながり、発展していくのです。そしてそれはさらに小学校以降の学習へと結びついていきます。幼稚園においても、園に入る前の子どもの育ちを受けて、さらに卒園してからの子どもの育ちを展望していくものとして成り立つことを明確にしています。



新しいものを見るたび、触れるたび、
目覚ましく成長する子どもたち。
子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。
育む環境で、子どもたちの明日は変わる。
だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。
好奇心や想像力、勇気や感動。
そして、子ども同士の関わり合い。
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、
最適な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



平成29年度 地区教研大会概要

東北地区 教育研修大会

宮城県・多賀城市／9月1日・2日

大会テーマ 「こどもがまんなかの教育・保育を考えよう」

第32回東北地区教員研修大会〈宮城大会〉は、9月1日（金）と2日（土）の2日間、宮城県多賀城市を中心に周辺の2市2町の10会場で10ヶ園の公開保育と分科会を行い、土曜日は、多賀城市文化センター大ホールを会場に、開会行事と記念講演を行いました。

東北各地よりおよそ1300名を超える参加をいただき、両日ともに充実した教研大会になりました。

1日（金）は、大荒れの予報でしたが、私たちの努力を知ってか、天も味方となり、快晴のもと午前中に公開保育を行い、午後からは、1つの分科会で免許状更新講習を行い、9つの分科会でファシリテーションによるグループワークを行いました。

今大会の特徴は、例年行っている他園の研究発表を行わず、公開園がこれまでの研究から出てきた疑問点などを、参加者へ問いとしてなげかけ、参加者みんなで話し合うファシリテーションを活用した分科会を実施しました。

当日、参加者の皆さんが、戸惑うことがないように、受付後にオリエンテーションを行い、付箋の使い方や、午後のグループワークの説明をしました。貼り出された問いに、たくさんの助言や参考となるアイデアをいただき、公開園にとって、励ましや参考になる意見をたくさんいただきました。

また、午後のグループワークでは、ファシリテーターが進行役となり、年齢や経験年数に関係なく、設定した問いについて付箋を使い話し合えたことは、貴重な学びの時間となりました。

さらにその後の助言者の先生の指導により、理解を深め、充実した内容の研修を行うことができました。

分科会の最後には、黄色い付箋を参加者に配り、

今回のファシリテーションを活用した分科会について感想を書いていただきました。参加者からは、「経験年数が多い先生方の意見がありがたかったです。」「問いにあげていたことと、ディスカッションした内容は、自分の中でも悩んでいたことでもあったため、とても参考になりました。」など、好評の声を多数いただき、これまでの研修大会では得られなかった、参加者自身が学びを実感できた分科会になったと感じました。

2日（土）は全体会を行い、国会議員をはじめとする多くのご来賓の方々のご臨席の中、宮城県副知事様より励ましの言葉もいただき、盛大に開会式を行うことができました。その中で、永年勤続表彰がなされ、先生方の努力をたたえることができました。

続く記念講演では、東京大学大学院教育学研究科教授遠藤利彦先生より、「子育て・子育ての基本について考える」をテーマにアタッチメントについてご講演をいただき、幼児期における愛着形成の重要性をお話しいただきました。参加者にとっても、印象に残るお話をたくさんいただきました。

今回の大会で、新しい分科会の取り組みを行い、滞りなく無事に終了できたのは、お忙しい中、ご協力いただいた助言者の先生方、また、最後までご指導くださった宮城県私立幼稚園連合会研修部の先生方と東北地区の役員の先生方、そして、その期待に応えようと、必死に研修を重ねた塩釜地区の先生方、さらに、研修大会を支えてくださった関係各位のみなさまに改めて感謝申し上げます。

（（一社）宮城県私立幼稚園連合会理事、多賀城市・多賀城高崎幼稚園／根來興宣）

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～ともに考えよう、子どもたちの未来～

台風直撃の天気予報に心穏やかではありませんでしたが、参加者皆様の日ごろの行いが良いので当日は青空が顔を出してくれました。

平成29年8月8日・9日、新潟市において第32回関東地区・神奈川地区教員研修新潟大会が開催されました。メイン会場となった朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて、千葉・山梨・神奈川・群馬・栃木・茨城・埼玉と新潟の8県、900名を超える参加をいただき盛大に開催することができました。参加、ご協力いただいた皆様にこの場をかりて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会1日目、開会式には、全日本私立幼稚園連合会の香川敬会長も駆けつけてくださいました。米山隆一新潟県知事をはじめと多くのご来賓よりご臨席を賜り、お祝い、励ましのお言葉をいただきました。また、永年勤続表彰では、全日本私立幼稚園連合会の表彰に191名の方が、新潟県私立幼稚園・認定こども園協会の表彰に57名の方が受賞されました。

基調講演では、今マスメディアに多数出演され、著書もベストセラーとなっている、慶應義塾大学総合政策学部准教授、中室牧子様をお招きし、「教育に科学的根拠（エビデンス）を」と題しご講演いただきました。昨今よく耳にする「認知能力、非認知能力」や「教育への経済的投資」など豊富なデータや図を示してご講演いただき、これからの幼児教育に向けた貴重なお話を時間いっぱい拝聴することができました。園長・設置者はもとより、現場の先生方からも新しい切り口での内容に、大変参考になったとの感想が多く寄せられました。

アトラクションでは、佐渡に拠点を置き、世界でも活動している、太鼓芸能集団「鼓童」による公演

がありました。5人の奏者による、激しく、力強く、繊細で、且つ美しささえ覚えるパフォーマンスに身も心も震えました。大太鼓、小太鼓、篠笛、リンなど日本の伝統的な楽器演奏の素晴らしさに会場全体が魅了されました。

大会2日目のフォーラムは、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題による一般フォーラムが8フォーラム、新潟県独自の特別フォーラムが5フォーラム、計13フォーラムです。

一般フォーラムでは、各県の熱心な研究、問題提起がなされ、参加者も積極的にディスカッションやワークショップに参加し、どのフォーラムでも「ためになった」というアンケート回答が占めていました。

特別フォーラムは、免許状更新講習、公開保育、園長・リーダー研修、実技講座、教養文化講座です。教養文化講座では、「歴史と文化溢れる“みなとまちにいがた”」ということで、発酵所、醸造所、豪農の館などを訪問し五感を刺激し、新潟ならではの歴史、文化を体験しました。

参加された方にとって、新潟での二日間が実りある学びの場となっていることを願っています。



((一社)新潟県私立幼稚園・認定こども園協会関東地区大会実行委員長、新潟市・認定こども園曾野木まるみ幼稚園／丸山和幸)

大会テーマ 「明日の日本を担う幼児教育」

～子どもたちの力のために、今こそ保育の質を問う～

平成29年7月28日（金）・29日（土）祇園祭の余韻が残る京都に、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、大阪府、京都府など1264名が一同に会し、暑い京都で、熱い研修大会が行われました。

京私幼連盟の各園の先生方によるハンドベル演奏から開幕した開会式に続き、「夢を追い続けて～勝利への道～」と題して、五輪メダリスト・レスリング日本代表コーチ、至学館大学副学長の吉田沙保里氏と日本レスリング協会常務理事・強化本部長、至学館大学教授の栄和人氏を迎え、京私幼連盟藤本明弘副理事長によるコーディネートで記念対談が行われました。お二人からは選手として夢を実現するために強い気持ちを持ち続けること、指導者として責任を持ってしつこく教え続けることなど幼少期の話を交えてお話ししてくださいました。

また基調講演では、西南学院大学人間科学部教授門田理世先生が「子どもたちの経験に見る保育の質」～保育者の保育指導の方向性を見据えて～と題して、新幼稚園教育要領の要点について教えて下さいました。

懇親会は京都府知事や京都市長をはじめ京都府と京都市の関係部局からの来賓の方々をはじめ近畿6府県の先生方500名を超える皆様で親睦交流の輪を広げました。「手づくりのおもてなしを」との思いで、アトラクションでは、先生方によるハンドベル演奏や若手男性教員によるウォーターボーイズさながらのシンクロナイズドスイミングパフォーマンスが披露されました。さらに園長先生バンドによる演奏、最後は会場全員で京都府の人権啓発ソング“笑顔のおくりもの”を京都から近畿地区へと広がるよう歌とダンスで歌い踊り、懇親会は盛会となりました。

2日目は以下の6分科会にわかれ、それぞれの地



区から研究された発表のもと質疑応答が行われました。

第1分科会 奈良県 「聞くちからを育てる」

第2分科会 兵庫県 「写真から読み取る子どもの姿」～『幼児期の終わりまでに育って欲しい姿』との繋がり～

第3分科会 滋賀県 「子どもが自発的に、没頭できる遊び」

第4分科会 大阪府 「0歳児から6歳児までの保育・教育を考える」～非認知的能力はどのようにして育まれるのか～

第5分科会 和歌山県 「子どもの特性の把握とその支援」～愛着という“信頼の絆”を深めるために～

第6分科会 京都府 「幼稚園教育要領改訂の根底にある学力観」

((公社)京都府私立幼稚園連盟副理事長、京都市・泉山幼稚園／熊谷知子)

大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

—園と家庭のつながりを深め、子どもの豊かな育ちを支援する—

今年度の担当は島根県で、8月21日・22日の2日間、宍道湖畔にあるホテルを会場に研修大会を開催しました。会場が限られているため、開催県としての参加希望人数は440名でしたが、各県の参加意欲が高く、最終的には466名の参加がありました。

開会式前にウェルカムコンサートとして、加盟園の北陵幼稚園の仲間であり、全国大会出場常連校である出雲北陵中学・高等学校合唱部の演奏がありました。1曲目の「アンパンマンのマーチ」の歌が始まると、会場の雰囲気が一瞬にして変わり、参加者の心が歌の中に引き込まれていったように感じました。これで今回の大会が決まったようにも思いました。その後の開会式以降のプログラムが、とても順調に流れていきました。

記念講演は、島根県らしさを味わっていただこうと、松江にゆかりのある小泉八雲氏のひ孫にあたる、島根県立大学短期大学部の小泉凡教授にお願いしました。演題は「未来へつなぐオープン・マインドと五感力～小泉八雲からのメッセージ～」であり、小泉八雲氏について語るとともに、現在ご自身が取り組んでいらっしゃる「子ども塾」についてのお話があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。続いて、小泉八雲氏が再話した「耳なし芳一」を酒井いずみ（田中旭泉）氏の琵琶演奏と語りで味わいました。

基調講演には、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長の先崎卓歩氏と全日私幼連の香川敬会長にお越しいただき、「幼児教育の根幹になる学力観について」と題して語っていただきました。まず先崎課長からは、今回の幼稚園教育要領の改訂の内容について詳しく述べていただきました。香川会長からは、教育要領の改訂を受けて各園では教育課程を見直し、新たな指導計画を作成して、子どもたちがより

良い幼児教育を受けられる園づくりに取り組まなければならない、との指摘がありました。その後、香川会長が先崎課長に質問する形での対談がなされ、有意義な時間となりました。

2日目は分科会となり、各県から研究2年目のまとめの発表がありました。テーマはそれぞれ、鳥取県「子どもの姿・見とり・言語化—使って学ぶ『教育要領』—」、岡山県「友だちの思いに気付き、人と関わる喜びを感じるために」、広島県「子どもと保護者の育ちを支える保育者の専門性」、山口県「連続的な子どもの育ちを支える園行事の在り方～運動会を通したからだの動きの育ちを目指して～」、島根県「自分の力を発揮し、主体的に生活を楽しむ子どもをめざして～子ども一人ひとりを生かすための環境構成と援助のあり方について～」でした。どの分科会も、充実した内容と時間だった、との声をいただきました。

そして設置者・園長・ネクストリーダー部会では、松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科の山下文一教授により、「①新幼稚園教育要領改定について」と、「②より質の高い幼児教育の組織体制の構築を目指して」についてご講演をいただきました。参加者からは、とてもいい内容のお話をいただくことができた、と好評でした。

5年に一度開催県が回ってきますが、5年前には13園あった加盟園が、今年は9園になりました。わずか9園でどれだけのことができるだろうか、との不安もありましたが、9園だからこそまとまってきた大会でもありました。9つの園全てが新制度に移行し、それぞれが新しい園の形を作りつつあります。

（（一社）島根県私立幼稚園連合会理事長、出雲市・認定こども園光幼保園／西谷正文）

私幼時報では、平成 29 年 9 月号から平成 30 年 3 月号の 7 回にわたり、平成 29 年 3 月 12 日に開催された 2016 年度・発達保育実践政策学センター (Cedep) の公開シンポジウム「乳幼児期からの縦断研究：幸せな人生のために何が必要か」の内容を報告します。今号と次号の 2 回で、ドイツ青少年研究所 (D J I) ・ベルナルド＝カリッキ博士の講演について報告します。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部平林祥先生 (大阪・ひかり幼稚園) が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。当日配付されたスライド資料は、発達保育実践政策学センターのシンポジウム報告ページ (http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_20170312/) からダウンロードできますので、ご参照ください。

ドイツ青少年研究所 (D J I) ベルナルド＝カリッキ博士 / 講演概要

ドイツの E C E C (乳幼児教育・ケア) における 改革と縦断研究の貢献

【今日の講演の概要】

今日の話は、大きく 4 点にまとめています。はじめに、ドイツにおける ECEC (乳幼児教育・保育) の背景について話します。次に、ドイツの ECEC で実施した改革のうち、特に 3 歳未満児への ECEC の拡張と、それを支え推進した長期縦断研究を紹介します。それから、現在着手しているドイツ教育パネル調査について話し、最後にそれら全体について議論します。

【ドイツの E C E C ・法的枠組、権利と責任】

ドイツでは、3 歳未満の子どもたちと、3 歳から就学までの子どもたちは、統合された制度の下で教育と保育を受けています。

ECEC の政策や規制に関しては、いくつかの階層に分かれています。[連邦政府] の役割は法的な枠組を作ることで、関与はそれほど大きくありません。16 ある [州] がそれぞれに、具体的な職務や基準の設定、財源の確保に責任を持ちます。各州ごと

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

積極的に研修に参加し、その履歴を
研修ハンドブックに記録しておきましょう。

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

新版 研修ハンドブック

4103501 **756 円** (本体 700 円)

- B6 判
- 120 ページ
- ビニールカバー入り

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー事業本部
TEL03-3262-5128



に基準や規制を定めていることは、統計にも表れています。

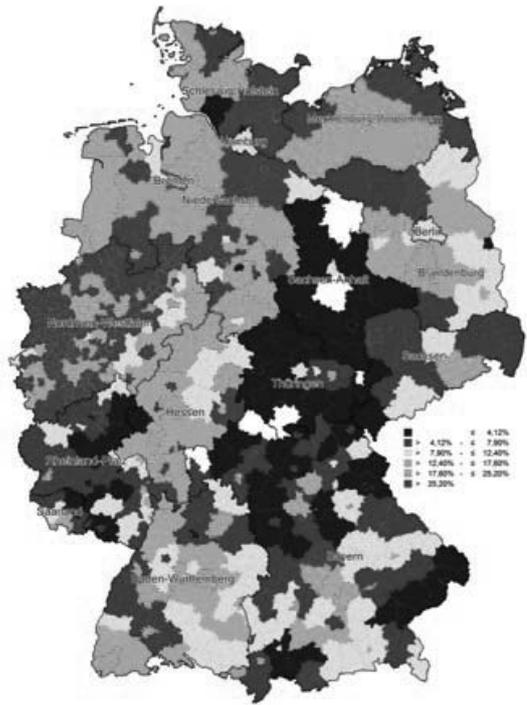
右図で、濃い色の部分の多い東部の州では家庭的保育所の参加率が低く、一方、北から西の州では利用率が高くなっています（配付資料 p 5 参照）。乳幼児期の子どもを家庭で見るべきか、施設で預かるべきかという考え方や文化の違いは、かつての東西ドイツの国境を境界線としてまだ残っていることが見て取れます。各地域の ECEC サービス・施設の提供に最終的な責任を持つのが、州よりも小さい単位の【地域共同体】です。

ECEC サービスは、大きく 2 つに分類されます。1 つは地域共同体が運営する公的な ECEC 施設、もう 1 つは民間の非営利事業者が運営する ECEC サービスで、こちらも非常に大きな福祉的役割を担っています。

法的には、ECEC に関して子どもの両親が非常に強い権利と責任を持ちます。地域共同体などが公的に家庭を支援することは法的な要求としてありますが、子どもを何歳から ECEC サービスに預け始めるか、どの種類の幼稚園や保育所に入れるかという判断は、全て家庭が下しています。

【ドイツの ECEC ・ 教育の方法と理念】

教育方法は、改革的なものを採用しています。例



えば、フレーベルやモンテッソーリ、シュタイナー、イタリアのレッジョ・エミリア、森の幼稚園、といった教育方法です。

状況アプローチとは、40 年ほど前に開発されたもので、子どもたちが実際の生活のなかで経験することの文脈に合わせて教育するというアプローチです。予め決められていて、教科書で固定されている教育内容ではありません。もう一つの特徴として、【ピアグループ】 といって子ども同士のやりとりの中で学びや探究が深まり、子どもたちが発達するこ

ポットは毎月 CD-ROM 付き!

チャイルドブックの月刊保育雑誌

POT

ポット

価格 本体 1,000 円 + 税

好評発売中!

チャイルド本社

保育に役立つ アイデア満載!

行事

遊び

食育

0・1・2
歳児

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

とを重視していることが挙げられます。また、保育室の中にいる1・2人の先生が、子どもたちの学びの環境を制限するのではなく、園全体あるいは園の外の近隣地域や、社会的資源も取り込んで保育をしようという[開かれた集団]というアプローチもとっています。

最近の研究成果を通して、日常生活の中に埋め込まれた教育が子どもたちの発達により資することが明らかになってきたからです。その文脈で考えると、非選択的なアプローチよりも普遍的なアプローチが必要ですし、就学前の1年に焦点化するのではなく、プリスクールの前からそして就学してからも継続して学び続けるべきですし、その内容も特定の領域や技能に集中するのではなく全人的な発達を捉える必要があります。また、活動や子ども同士・先生との対話の中などでも、深く入り込む経験を大切にす[没入できる学習プロセス]も大切にしています。

ここまで話したことは、右に掲載の1枚の写真に凝縮されています。

子どもたちが椅子をどこかへ運んでいるのですが、この活動は日常生活の中に埋め込まれており、彼らの生活の中で意味のある文脈の中にあります。また、小さい子は自分がうまく椅子を運んでいると思っている一方で、大きい子が手でそっと支えるという足場がけの要素もあります。

我々は専門家として、幼稚園や保育所、家庭的保

育の環境で子どもたちが育つなかで、このような自然で、相互交流的で、文脈に基づいていて、日常生活の中に埋め込まれているような学びの機会を提供することが、昨今ますます大事になっているのではないかと思います。



【ドイツのECECにおける改革】

神経科学の研究から、人生の最初の1年は、感覚系の神経や言語の発達に関して非常に重要な時期であり、その後の高次認知機能の発達につながることが明らかになっています。人生の最初が非常に大事であることは、社会的に浸透してきています。です

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス

らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

**ぜ〜んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

が、2008年時点での3-5歳の子どものECECへの参加率を見ると、ドイツは約93%と非常に高い水準にある一方で、0-3歳の子どものECECへの参加率は約18%と非常に低い水準にありました。なので、3歳未満児のECECに関してドイツは発展途上であるという事実が出てきました。

2007年に、ドイツにおけるECECの3歳未満児への拡張に関する大きな節目がありました。政治的なステークホルダー（利害関係者）が連邦・州・地域共同体レベルで一同に会して、2013年から12カ月児へのECECを提供することに合意し、1-2歳児へのECECの拡張が実現されました。ECECサービスに関しては、州が財源確保の責任を持つと話しましたが、1-2歳への拡張に関しては、連邦政府が10億ユーロ単位で追加の融資を決め、全ての1-2歳の子どもたちが必要とするECECサービスを提供できるように強力的に財政的支援を行いました。このとき同時に、ECECシステムの法定モニタリングも進められました。

グラフ①では、1-2歳児のECECの法定権利の獲得の結果として、ECECへの参加率がどのように変化したかを示しています。拡張前の2006年には13%だった参加率が、2014年には32%まで増加しました。

グラフの左半分に西ドイツ、右半分に東ドイツの結果を示し、それぞれ3分割して1歳未満児・1歳

児・2歳児の参加率をまとめています。東ドイツでの非常に高いECEC参加率が見取れるほか、東西にかかわらず1-2歳児で参加率に高い伸びが見られます。育休制度が拡張され、育休の最初の1年間は所得の保障があるため、1歳児未満に関しては東西のどちらでも家庭的保育所の利用が安定的に低い様子が見られます。

【長期縦断研究・夫婦関係】

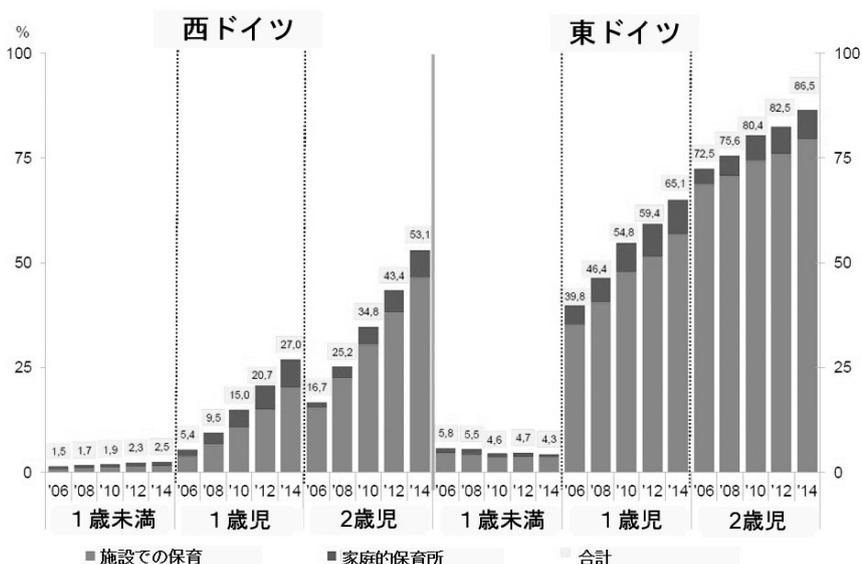
若い親たちを調査した長期縦断研究が、ECECの改革にどのように貢献・寄与したかについて話します。

一例として、1995年から10年間（妊娠後すぐから9歳時点まで）にわたって、親になることの影響を2つの群で追跡した縦断研究の結果を紹介しましょう。1つの群は、初めて親になって第1子を育てる夫婦、もう1つの群はすでに子どもがいて、第2子が生まれる夫婦を対象に調査を実施しました。

結論から言うと、第1子でも第2子でも、結果は大きく変わりませんでした。口論や喧嘩など関係の悪化を招く衝突の頻度が、子どもが生まれてから時間を追うにつれて増えました。また、婚姻関係の質の変化に関して、肯定的コミュニケーションが減少し続けることも明らかになっています。もう一つ重要な指標である、親密さやお互いへの性的関心も大きく減少して夫婦関係の減衰が見られました。（配

付資料 p17-20 参照）

1年から1年半くらいの間隔で9歳まで定期的に調査をしている間、これらの数字がときどき持ち直すので、そこで下げ止まるのかと思ったら、また次の調査時にガクンと下がり、下げ止まりませんでした。子どもが生まれることが夫婦関係に与えるダメージに関して、私たちが見誤り、過小評価していたことは明らかです。この調査結果は、婚姻関係が維持された方々のデータであり、調査の途中



▲グラフ①

で離脱した(= 婚姻関係を解消された)方々がいることを考慮すると、調査結果以上に深刻な影響があることが明らかです。この事実を起点として私たちが問うたのは、どのようなことが原因となり夫婦関係に負の影響が起こるのか、ということでした。

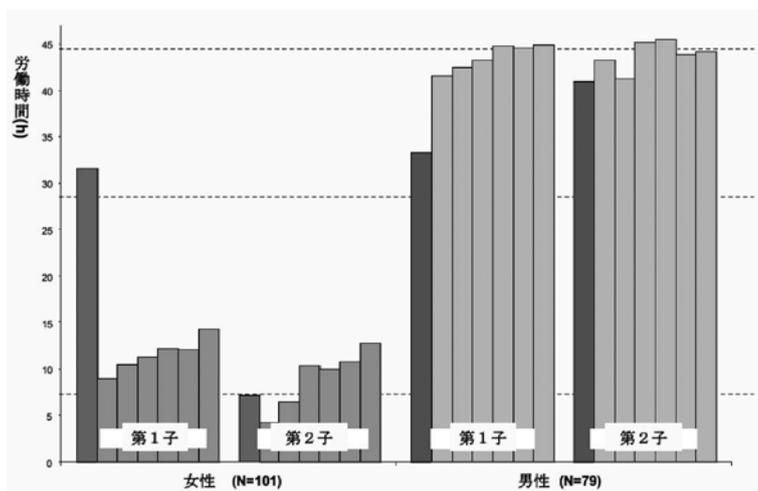
【長期縦断研究・夫婦の労働時間と所得】

次に、グラフ②の男女別の労働時間を見ていきます。男女とも第1子の一番左側の柱は、妊娠初期時点の労働時間です。女性

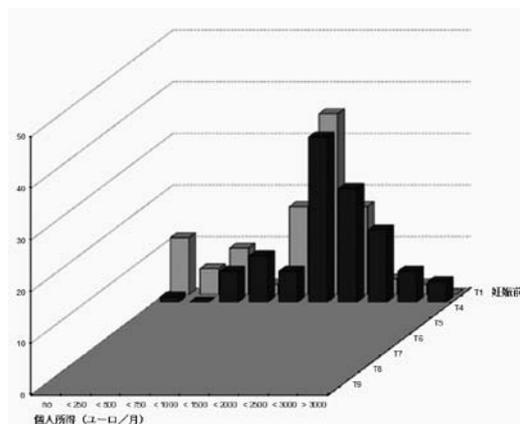
は1週間に約33時間で、男性は平均年齢では2歳上であるものの、ほぼ同等の労働時間でした。その後、子どもの生後3カ月から生後9年まで調査を継続したところ、男性は労働時間を増やす一方で、女性は労働時間が減少し、育児や家事に取り組むという実態が明らかになりました。すでに予想されていたことではあるのですが、やはりショッキングでした。お父さんが外に食べ物を取りに行き、お母さんが家で子どもを育てることを「ターザンとジェーンモデル」と私たちは呼んでいますが、伝統的な性差による役割の違いが子どもの出生時に強く顕れました。生後9年まで追跡しても、この基本的なパターンは変化しません。

続いて、夫婦それぞれの月収(ユーロ)を見ていきます(グラフ③-⑤参照)。妊娠以前は、男女ともに所得分布の中央に一番大きい山があり、男性の方が少し平均年齢が上だったり、その結果少し出世していることで若干収入が高いものの、基本的には男女とも大きな違いはない一つの大きな分布が見られました。出生後から生後9年の間、女性の所得の大きな山は中央から左側(低所得)に移っていき、男性の所得は右側(高所得)に移っていきます。これが、所得面から見たときの、夫婦が子どもが生まれた後に経験することになります。

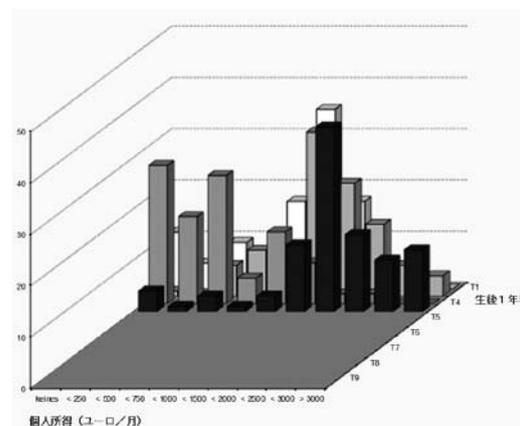
(大阪府・ひかり幼稚園/平林祥)



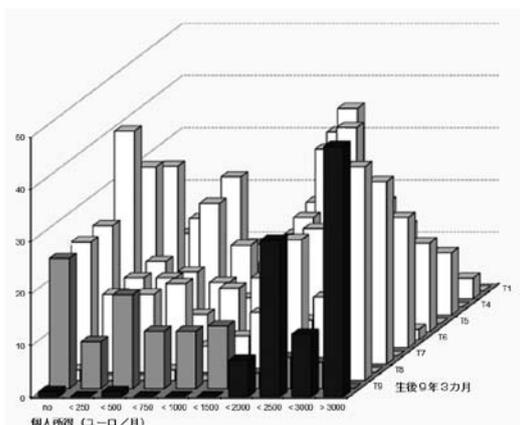
▲グラフ②



▲グラフ③



▲グラフ④



▲グラフ⑤

免許状更新講習を受講・修了された皆様へ

更新講習を受講し終えた後、期限までに免許管理者（都道府県教育委員会）に対する申請が必要です。期限までに必要な申請をしなかった場合、更新講習を受講し終えていたとしても、有する免許状が失効してしまいます。

「更新講習修了確認」に係る申請方法や提出書類は各免許管理者が定めております。各免許管理者が定める申請方法等を確認の上、必ず期限までに申請を行うよう、ご注意ください。

※ 申請期限

- ・ 修了確認期限が平成 30 年 3 月 31 日（第 8 グループの方）→平成 30 年 1 月 31 日
- ・ 修了確認期限が平成 31 年 3 月 31 日（第 9 グループの方）→平成 31 年 1 月 31 日

申請先一覧（文部科学省 HP）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/002/1314000.htm

11 月は、児童虐待防止推進月間です。

厚生労働省では毎年 11 月を「児童虐待防止推進月間」と定め、児童虐待問題に対する社会的関心の喚起を図るため、集中的な広報・啓発活動を実施しています。

平成 29 年度の児童虐待防止推進月間の標語は「いちはやく 知らせる勇気 つなぐ声」です。

期間中は児童虐待防止のための広報・啓発活動、

オレンジリボン・キャンペーンの推進、フォーラム等の開催などの取り組みを集中的に実施します。

詳しくは厚生労働省のホームページをご覧ください。

11 月第 3 日曜日は、家族の日です。

内閣府では 11 月第 3 日曜日を「家族の日」と定め、その前後 1 週間を「家族の週間」とし、子どもを家族が育み、家族を地域社会が支えることの大切さについて理解を深めてもらうため、活動を行っています。

多様な家庭や家族の形態があることを踏まえつつ、家族や地域の大切さ等の理解の促進を図ることを目的としております。

期間中は「家族の日」啓発のための広報活動、フォーラム等の開催などの取り組みを積極的に実施致しております。

詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。

内閣府「家族の日」「家族の週間」ホームページ
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

※ 私幼時報 11 月号に 2 点誤りがございました。

P.15、右段 33 行目

（誤）番長幼稚園→（正）番町幼稚園

P.23、佐賀県からのおたより表題

（誤）教員養成校に出向いての就職説明会→（正）第 2 回「こどもがまんなか PROJECT in SAGA—佐賀のこどもたちの未来を考える—」

謹んでお詫び申し上げます。



バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！

くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットの GPS 機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。



いつもNAVI
「いつもNAVI 動態管理サービス for 送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコム登録商標です。



株式会社 **チャイルド社** インターネット課
TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

会長改選

富山県において今年度8年ぶりに協会長の改選を行いました。

会長として舵を取って頂いた上田先生には、誰もが感謝する8年間であったと思います。

任期中に、大きな出来事として自民党政権から民主党へと政権が交代し、幼稚園自体がなくなるかもしれない危機的状況を経験しました。また、認定こども園への移行と制度改革が行われる中、県の会長として誰よりも認識を深め、県内の園長先生方々はもとより、行政の方々からも問い合わせが来るくらい知識も豊富で、我々協会加盟園は上田先生に聞けば何でも教えてもらえると移行に向けた取り組み準備を進めてきました。新制度本格施行から現在3年目、加盟園51園中認定こども園及び施設型給付への移行が30数園となりました。

まだまだ上田先生を頼りにして行きたいのですが、会長の在籍が8年間と長期に渡ったことと、県内の園の新制度移行に一定の目途が立ったことを理由に会長を辞したいと今年度改選を行いました。

私自身副会長として会長と共に歩んできましたが、肩書から副が取れただけなのにこんなに違うものかと、上田会長のすごさにいまさらながら敬服しています。

現在も幼稚園教育要領の改訂等いろいろと取り組むべき課題は山積していますが、県内の先生方また多くの方々に助けていただきながら、会長として舵を取っていきます。

(富山県私立幼稚園・認定こども園協会会長、高岡市・認定こども園こぼと幼稚園／畠山 遵)

保育者の人材確保・育成 に向けて

子ども子育て支援新制度が始まり、3年が過ぎようとしています。長崎県私立幼稚園連合会でも、加盟119園中、私学助成幼稚園42園、新制度移行園77園（幼保連携型37、幼稚園型32、施設型給付8）となり、新制度移行率は65%に上ります。

新制度開始前は同じ私学助成を受ける園として共通の課題を持って取り組んできた私たちにとっても、担当行政が県と市町に分かれたことで共通の課題・意見を集約しにくくなっている現状です。とはいえ施設形態に関わらず共通して話題になるのは、保育人材の確保・育成についてです。

県内保育者養成校と当連合会との意見交換会を毎年行い、5回を数えました。その中で養成校側から学生の保育所志向が強まっているとの意見がありました。学生が実際に園見学などで足を運ぶ際も、保育所では休日を除いて見学が可能なのに対し、幼稚園の教育活動を見ることができるのは平日昼間に限られるということもあり、幼稚園の見学を依頼するのに敷居の高さを感じる学生も多いとのことでした。そこで今年度、当連合会では加盟園に協力いただき、長崎県内の幼稚園（認定こども園含む）がいつでも園見学が可能となるオープンスクール「みにこんね」を保育者希望の学生に向けて実施しました。実際に幼稚園の現場に足を運んでいただき幼児教育の魅力を発信することで、人材の確保・育成、更には保育の質の向上につながっていくことを願っています。

(長崎県私立幼稚園連合会総務委員長、長崎市・幼保連携型認定こども園ひかり幼稚園／大谷 英也)

編集後記

友人夫婦数組で伊勢神宮に参拝に行く計画を立てています。ホテルや交通機関をわいわい言いながら決めるなど、行く前から大人の修学旅行状態。なぜ今、伊勢神宮なのか、という声が聞こえてきそうですが、「一生のうち、一度はお伊勢さんに」という誰かの提案ですんなり決まりました。そういえば、江戸時代は、伊勢は庶民の憧れの地だったとか。今でいうディズニーランドやUSJのようなものだったのでしょうか。

霊験あらたかな地の話題とは相反するように、各地でテロがおり、北朝鮮が不穏な動きを見

ています。世界を取り巻く状況は決して心穏やかなものではありません。幼児教育に励む私たちの状況も、教師や保育士不足、処遇改善の問題など、心穏やかに過ごせない状況が続いています。日々、子どもたちと向き合い、この子たちの健やかな笑顔のために頑張りたいという願いは未来も続いていくのでしょうか。

果てしなき遠い時間の日本を見つめてきた神宮に、思いを込めて祈りを捧げてきたいと思っています。

(調査広報副委員長・高尾恵子)

平成 29 年度 (第 10 回) 免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 札幌市	「国の教育政策や世界の教育の動向」[教員としての子ども観、教育観等についての省察]「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」[子どもの生活の変化を踏まえた課題]の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月12日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子(藤女子大学人間生活学部 保育学科准教授) 川端 美穂(北海道教育大学旭川校准教授)	6時間	平成30年1月11日	150人	平29-80012-100892号
北海道 旭川市	「国の教育政策や世界の教育の動向」[教員としての子ども観、教育観等についての省察]「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」[子どもの生活の変化を踏まえた課題]の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月12日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子(藤女子大学人間生活学部 保育学科准教授) 川端 美穂(北海道教育大学旭川校准教授)	6時間	平成30年1月11日	100人	平29-80012-100893号
北海道 帯広市	「国の教育政策や世界の教育の動向」[教員としての子ども観、教育観等についての省察]「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」[子どもの生活の変化を踏まえた課題]の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月12日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子(藤女子大学人間生活学部 保育学科准教授) 川端 美穂(北海道教育大学旭川校准教授)	6時間	平成30年1月11日	50人	平29-80012-100894号

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

北海道 稚内市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月12日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授） 川端 美穂（北海道教育大学旭川校准教授）	6時間	平成30年1月11日	50人	平29-80012-100895号
北海道 北見市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月12日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授） 川端 美穂（北海道教育大学旭川校准教授）	6時間	平成30年1月11日	50人	平29-80012-100896号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 札幌市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月11日開催の必修講習と連続して行うものです。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 高橋 真由美（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授）	6時間	平成30年1月12日	150人	平29-80012-301802号
北海道 旭川市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月11日開催の必修講習と連続して行うものです。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 高橋 真由美（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授）	6時間	平成30年1月12日	100人	平29-80012-301803号
北海道 帯広市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月11日開催の必修講習と連続して行うものです。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 高橋 真由美（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授）	6時間	平成30年1月12日	50人	平29-80012-301804号
北海道 稚内市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月11日開催の必修講習と連続して行うものです。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 高橋 真由美（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授）	6時間	平成30年1月12日	50人	平29-80012-301805号
北海道 北見市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月11日開催の必修講習と連続して行うものです。	吉田 耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長） 高橋 真由美（藤女子大学人間生活学部保育学科准教授）	6時間	平成30年1月12日	50人	平29-80012-301806号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 旭川市	※「保育の実践力を高める」 「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	佐藤 公文（北海道教育大学旭川校教育学部非常勤講師、学校法人宝田学園わかば幼稚園園長）	6時間	平成30年1月13日	100人	平29-80012-507979号
北海道 室蘭市	※「保育の実践力を高める」 「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり振り返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田耕一郎（北翔大学非常勤講師、北見北光幼稚園理事長・園長）	6時間	平成30年1月13日	50人	平29-80012-507980号
大阪府 大阪市	本講習では、前半は米国をはじめ海外の多様な幼児教育実践の視点から、日本の幼児教育の特徴や独自性について考えます。いかに私たち日本人の社会的・文化的慣習や考え方が、保育者の価値観や子どもの行動様式に影響を与えているかを示します。 また後半は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域の理解を具体的に深めます。 ◆保育実践に反映する領域の視点 ◆幼稚園教育要領改訂にあたって注目すべきポイント	中坪 史典（広島大学大学院教育学研究科准教授） 水谷 豊三（大阪教育大学非常勤講師、認定こども園日吉幼稚園理事長・園長）	6時間	平成30年3月27日	100人	平29-80012-507981号
広島県 広島市	本講習では、子どもの成長発達における「遊び」の重要性について再考します。具体的には、講義や保育実践の映像を用いたカンファレンスを通して、自らの子ども観や保育観を振り返るとともに、園全体で遊びの質を高めるための幼児理解や保育者の援助について考えていきます。	湯地 宏樹（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授） 中丸 元良（比治山大学短期大学部非常勤講師）	6時間	平成30年1月13日	140人	平29-80012-507982号